



笠井かなえの活動レポート 3月議会報告

～子育て・介護をひとりぼっちにしないまちに～

みなさまのご意見、現場の声を
お聞かせください。
TEL・FAX：0940-37-0700
Mail：munakata@fnet.gr.jp



メール用
QRコード

一般質問

◆コロナ禍こそフレイル予防で健康づくりを

新型コロナウイルス感染症の流行が繰り返し起きて2年以上となり、予防対策に配慮した生活が継続しています。特に、高齢者は外出を控え閉じこもりがちになり、心身の活力が低下する「フレイル」状態の方が増加しています。コロナ収束後、要介護者が増加することが懸念され、フレイル予防に取り組む自治体が増えています。市民が心身の健康を維持していくために、フレイルに関心を持ち、予防の取り組みを日常的に実践することが重要だと考え、質問をしました。

●宗像市のフレイル予防の取り組みと課題について

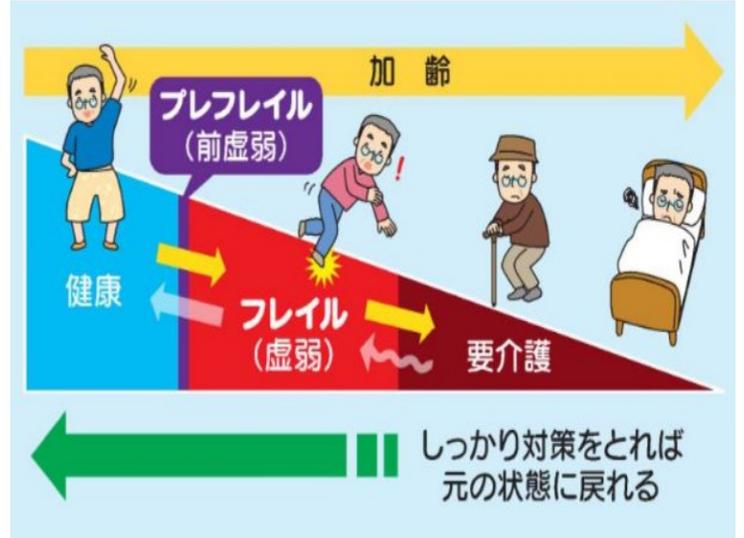
令和3年度、健康づくりの一環として「フレイル予防」の強化の実施内容を確認しました。

〈市の回答〉

地域で開いている「高齢者の通いの場」に保健師などが出向き、健康相談やフレイルチェックを行っている。その結果から、食事など生活改善の助言を行っている。

今年度は活動を休止する地区（団体）が多かったため、食事や運動、口腔ケアなどのチラシ、週間カレンダーを作成し、配布した。

課題として対象が一部の高齢者に限られており、若い世代へのフレイル対策が不十分です。



大分県ホームページより

●若い世代や幅広い市民にフレイル予防が必要

健康で長生きすることは、どの世代にとっても重要な課題です。フレイルは、本人が気づいて、日常的に改善に取り組めば、健康な状態に戻れることがわかっています。

若い働く世代を含め幅広い市民への啓発や色々な場でのフレイルチェックの実施、フレイルサポーターの養成など対策として効果的な取り組みを提案しました。また、介護も医療も利用していない高齢者への対策を要望しました。

〈市の回答〉

地域の祭りやイベントに健康ブースを出展し、測定や健康相談を実施。子育て世代が自身の健康を考えるきっかけになっている。また、今年は集まらずにできる「福岡健康ポイントアプリ」を活用したキャンペーンを実施。

- ・若い世代へのフレイルチェックは（笠井が紹介した）他の自治体の事業も参考に前向きに検討したい。
- ・医療も介護も利用していない高齢者への対策も今後取り組む予定。

予算

令和4年度予算に意見を付けて賛成しました。

一般会計 390億9千万円

新型コロナウイルス感染症経費と城山中学校の整備事業工事費により前年に比べ40億円増えています。（4月に市長選挙があるため、骨格予算となります。）

要したと

子ども相談支援センターでのスクールソーシャルワーカーの相談件数が令和元年度と令和3年度を比較すると、児童虐待と不登校、障がいに関する相談が約3倍になっています。

対応を充実させるために、現在3人いるスクールソーシャルワーカーの増員を要望しました。

ここに注目

- ・市民協働環境部の中に脱炭素社会推進室が新設され、ゼロカーボンシティへの取り組みを進めていきます。
- ・災害に強い都市づくりとして、雨水管理まちづくり係を新設し、田んぼダムの調査を始めます。

注目の予算

○産後ケアの拡充が実現

令和2年12月議会で要望したデイサービス型、訪問型の支援が受けられるようになりました。利用期間は出産後20日までから1年までとなりました。

○水泳指導を民間に委託

教師の負担軽減とプールの維持管理費の削減のため日の里西小学校と日の里東小学校に続き、今年度は東郷小学校の水泳指導も民間に委託されます。

○介護職員人材確保対策費

市内の介護サービス事業所に勤務している職員（勤務予定者含む）を対象に資格取得費用が助成されます。

宗像市在住者は3ヶ月継続勤務後、市外在住者は6ヶ月継続勤務後、それぞれ助成されます。

